
限られた世界

ELLE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

限られた世界

【Nコード】

N7268V

【作者名】

ELLE

【あらすじ】

とある一人の少年が星の40%を悪という魔物のようなものに乗っ取られた星でみんなのヒーローのような職業「善」になり、悪達を討伐していく物語。

救い&夢

タッタッタッタッタッタッタッタ

俺は凄く疲れている。

けど、止まったらいつかんの終わりいや……全力疾走をやめたらいつかんの終わりだ。

そう……これは不幸中の幸いだ。

もう少し足が速い奴なら、俺はとうに死んでいる。けど俺は思った。

「なんでこんなとこにドンドルがいんだよ!？」

もう1キロは全力で走ったんじゃないだろうか!？」

そう思っていると、意識がもうろうとしてきた……

そう思ったとき、後ろから追いかけてきているはずの、ドントルの足音が聞こえなくなった。

後ろを見ると、ドンドルが倒れていた。

そして、その横に一人の男が立っていた。

その装備と顔には見覚えがあった……あの方だ。

そのとき、安心したのか俺の意識は遠のいていった……

俺は気がつくと自分の家の自分の部屋のベッドで寝ていた。

母さんによると俺は家の前の壁にもたれる形で気を失っていたらしい。

その後、俺は自分の部屋でしばらく考えた。

「決めた。俺はあの人を上回る一番強い善になる。

それが俺の夢だ!！」

――善――

悪（魔物など）を倒す事を仕事とする。

善には階級があり、大きく分けると7つに分けることができる。さらに善の中でも特に強い者達はその7つの

階級を上回り、その数は2桁になるか、ならないかぐらいである。

ー悪ー

魔物や悪魔などの恐ろしいタイプや

人間のペットになるタイプ、

家畜タイプ、

そして、善のパートナーになるタイプなどがある。

→から分かるように危険な悪だけではない。

ードントルー

悪の一種で肉食。

人間以外は草食系の悪しか食べない。

4本足で歩く。

立ったときの全長7メートル。

体重8625キロ

スピードが10歳の子供の全力疾走の

平均ほど。

というふうにスピードは遅いが

他の悪に比べ顎あごの優れていて、

約38トンほど

肉はあまり美味しくない。

救い&夢（後書き）

どうもELLEです。

今回書かせて頂いた「限られた世界」ですが
私はけっこう気に入っています。

これが、10000アクセスを越える日を夢見て頑張りますので、
よろしく願います。後、感想待ってます。アドバイスも下さい。

（＜―＞）

悠騎 四年前

「それで、俺は善になったんだよ。」

俺はなぜ自分が善になったのかを悠騎に話していた。

「ふう〜ん……だから、雅彦は善になったんだ。」

後その人かつこいいね！！」

悠騎の感想はどこにでもありそうな感想だが、

とても気持ちがかもっていた。

少し悠騎について説明しよう。

（四年前）

俺が善になってから、すでに一年がすぎていた。

「はあ……はあ……はあ……はあ……」

俺はベーヴウとザンブーを討伐し、街に帰ろうとしていた。

しかし、かなりの重傷を負ってしまったため、街までもつかどうかわからなかった。

そこで、俺は一つの町によった。

この町は、俺達の街よりは、小さいが町というだけあって、それなりに設備は充実している。

俺はその町の病院によった。

町で一番大きく赤十字が目立っていたため、すぐにみつけることができた。

どうやら、この町の名前は”ミネルミ”という町らしい。

俺が病院によって入院してから、七日がたった。

「もう退院できますよ。」

と看護師さんがいった。

俺は病院を出た。

そして、俺は歩いていると一つの裏路地で目が止まった。

赤ん坊が捨てられていたのだ。

大きめのバスケットに毛布とともに入れられていた。俺が近づいて見ると、手紙が書いてあるのがわかった。その手紙にはこう書いてあった。

「私達にはこの子を養えるようなお金はありません。

この子が成長して苦しむくらいなら、

ここで死なせて楽にしてやりたいのです。

もしこの手紙を読まれたとき、

この子が生きているなら、

拾ってやってください。」

そうこうやって捨てられていたのが悠騎だ。

悠騎になぜ善になったかと言われたため話していたのだ。

今は任務の途中である村の宿で体を休めていた。

そして俺は四年前と同じバーヴウとザンプを討伐すべく、準備をしていた。

ーバーヴウー

二足歩行の人型で肉食の悪。

草食の悪、肉食の悪関係なく食べる。

スピードは非常に遅いが、力は強い。

知能レベルはかなり低い。

全長3メートル

体重420キロ

ザンプの上のっていること多い。

ーザンプー

四足歩行の雑食の悪。

雑食だがどちらかというとタンパク質を好む。

スピードはそれなりに速いが、力は弱い。

そのためベエヴウを上へのせ、

両方の弱点を補っている。

全長6メートル

体重900キロ

悠騎 四年前（後書き）

どうもELLEです。

第二部完成です（<|>）

まだ5アクセスで10000アクセスにはまだまだ届きませんが頑張りますので

皆さんも応援してください！！

よろしく願います！！

あと、感想・アドバイスお待ちしております。

ベーヴウ&ザンプ討伐任務

「じゃあ今からベーヴウとザンプの討伐に行ってくるから、俺が帰ってくるまで、」

ここで待つてろよ。後、鍵をちゃんとかけるよ。」

俺がそう注意すると……

「分かってるよ！これで何回目！！」
と怒られた…

「じゃあ行ってくるな。」

「うん気をつけてね！！」

俺はこうして村の宿を出ると真っ直ぐ村の出入り口に向かっていった。」

ベーヴウとザンプが目撃されたポイントと、誰かが被害にあったポイントが

二つ合わせて12個ある。

次に俺は書類に書いてある、被害者数に目を向けた。
すると……

「！！8人！！8/12が被害者数なんて相当凶暴な野郎どもだな……」

俺は少し調子が悪くなったのが分かった。

そしてポイントを俺がチェックしながら歩いていると近くでザンプのものであるう鳴き声が聞こえた。

しかも、その鳴き声は苦しんでいるような鳴き声だ。

「どうやら凶暴なのは、ベーヴウのようだな……」

鳴き声のした方い近づいていくと次第に足音が聞こえるようになってきた。

この辺りはゴツゴツした岩が多いので俺は岩陰に身を隠した。

足音はかなり大きくなってきた。

そして俺の横にベーヴウとザンプが見えた。

どうやら、奴らはまだ俺に気づいていないようだ……よし、なら不意打ちで……

俺は奴らの左前脚（ザンプの左前脚）にむかって三連ショットガン
を奴に向かってももちろん三回連続で撃った。
すると奴らは前に倒れた。

が上に乗っていたベーヴウは俺めがけて近くにあつた岩を投げつけてきた。

俺はそれをなんとかかわした。

そして俺も負けずとPSM2を二回連続で撃った。

狙った場所はベーヴウの腕。

そう、俺はさつきから奴らの動きを止めようとしているのだ。

こうして2体の動きを止めてからいつきにきゅうしよをPSM2を
撃ち込む。

「はい、任務完了！！さて、宿に戻りますか！！

IPS M2I

これは善の七階級の内下から三番目の階級Cになるともらえる、特別な銃。

PSM2のPはパワー、Sはスピード、Mはミサイル、2は2連発
つという風に、それぞれの頭文字をとって出来た名前。

意味はパワーとスピードのどちらにも優れているミサイル。さらに
2連発できる。シンプルに作られた。

ベーヴウ&ザンプ討伐任務（後書き）

どうもELEEです。

つつつついに言える（<|>）いくぞ！！

1・2・3だ〜！！

いやあやっぱり良いですね！！

後、現在14アクセスで10000アクセスまで9986アクセス
！！

まだまだですね（^ー^）

まあこれからも頑張りますので皆さんあたたかく見守って下さい。

感想、アドバイス待ってます！！

宿

ザッザッザッザッザッザッザッザッザッザ

俺は村に向かつていった。

そして歩き始めて30分ぐらいたったころ、

やっと村が見えてきた。

そして、俺は村の宿に向かった。

そして、鍵を受け取り部屋に向かった。

俺は部屋の鍵を開け入って

「ただいま。今帰ったよ。」

つと言ったが誰も部屋にはいなかった。

俺は一瞬焦ったがすぐに冷静になった。

「待てよ……前にもこんな事があったような気が……」

そして30分後

「思い出した！！悠騎は前隠れてたんだ！！」

そして探すのにまた30分…

「見つけた！！」

と俺がいうと

「見つけた！！」

と悠騎は言ったので

「見つかった！！じゃねえ！！」

と俺は悠騎の頭をかるくたたいた。

「いてててててててて（<―>）」

「いててててててててじゃねえ！！」

無駄な心配させんじゃねえ！！」

「はい」

落ち着いた俺は

「よし、そろそろでるぞ。準備しろ。」

「もうできてるよ。」

「よしじゃあそろそろ出るか。」

俺がそう言つと

「オウ!!」

そういつて悠騎が手をあげたときその手に
バロンがついていた。

俺はそのバロンをたたきつぶした。

「さて行きますか!!」

こうして俺達は宿をたった。

ーバロンー

現実世界という蚊で

違うところは血でなく、

人の悪の心を吸うというところ。

人間は善の心と悪の心から成り立っている。

なのであまり吸い取られすぎると死んでしまう。

宿（後書き）

ついに第4部作完成です!!

今のアクセス数は22なんで後9978アクセス!!

やっぱりまだまだ（-|-）

でもくじけず頑張ります（o^_^）b

感想、アドバイス待ってます!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7268v/>

限られた世界

2011年10月9日04時50分発行